

## 巻頭言

校長 浅沼 淳

2月6日、5年間の研究を締めくくる課題研究発表会を実施した。課題研究のレベルは年を追うにつれて向上してきたが、果たして今年是最終年度にふさわしい深まりのある発表会になるのか、一抹の不安も感じながら当日を迎えた。しかし、その不安は杞憂に終わった。

研究の内容やその水準は事前に見聞きする機会も多かったので心配していなかったが、発表会のレベルはむしろ質疑応答に表れると考えている。念のため、校長あいさつで、オーディエンスも自発的に建設的な質問をし、研究の更なる深まりに資するよう協力することで、この体育館を知が集約された空間にしようと呼びかけた。2年次生 GLOBALⅡの最初のグループの10分間の発表が終わり、いよいよ質疑応答の時間。生徒の方を振り返ると、たくさんの手が上がっていた。次々と発せられる質問の多くは本質を突くもので、思わず頷く。それに対し、発表者は顔色一つ変えず丁寧に答えていく。何という自信の表れか。自分たちがテーマについていかに深く研究し、ゆるぎない信念を持って発表したかということを誇示しているようにさえ見える。質問者も負けじと、更に深く突っ込んで聞く。発表者は決して安易に「後で調べておきます」などと逃げたりせず、一生懸命分かりやすく説明する。ここまでのやり取りができるとは。あっという間に用意された8分間が過ぎ、やむを得ず質問は打ち切られた。

質疑応答はその後ますます活発になり、刺激を受けた1年次生も果敢に質問していた。その後会場をHRに移してポスターセッションや小グループのプレゼンテーション発表がなされたが、どのHRを覗いても体育館の熱気がそのまま持ち込まれ、熱い議論が交わされていた。

これまでの各種の調査で、本校の生徒は批判的思考力が弱いという結果が出ていた。そこで、全教員でクリティカルシンキングを合言葉に、あらゆる教育活動の場面において、生徒の批判的思考力を伸ばすことを意識しながら取り組んだ。発表会の前日に届いたある調査結果では、今年度の生徒は昨年度に比べて批判的思考力が高くなっているといううれしい結果が出ていた。それを実感した発表会であった。

発表会終了後、会にご参加いただいた他校の先生方を対象としたSGH成果報告会を開いた。来年度からすべての高校で「総合的な学習の時間」に替えて、新学習指導要領の「総合的な探究の時間」を実施することとなった。多くの学校で新たに課題研究を始める準備を進めている中で、本校の実践が少しでも参考になればとの思いで、5年間の取組と成果を報告した。SGHで取り組んだのは課題研究だけではないが、報告後の質問の大半は課題研究の進め方に関するもので、関心の高さがうかがえた。

ただ、生徒たちの成長は課題研究の中だけで育まれたものではない。課題研究には教科横断型の学習が欠かせず、また思考力、判断力、表現力などの資質・能力も不可欠である。課題研究の指導をする中で教職員がそのことに気づき、各自の教科指導が大きく変わった。どの授業を参観しても、主体的・対話的で深い学びを目指した取組が展開され、かつて多かった一方的な講義形式の授業はほとんど見られなくなった。生徒たちはペアワークやグループワークの中で、自分の考えをまとめて発表したり、他人の意見に耳を傾け自分の考えとの違いを元に議論したりすることが当たり前になっていった。教科の学習で得た知識を課題研究に生かし、そこで湧いた新たな疑問を解決すべく再び教科の学習に向かう。こうして生徒は主体的に学ぶおもしろさを知ったようだ。

グローバルリーダーには、バックグラウンドの異なる多様な人々と意見交換し、主体的・協働的に新しい価値が生み出せるような能力が求められる。SGHの5年間の研究の中で、課題研究だけではなく、教科の授業をはじめあらゆる教育活動の中で生徒を主体的な学びに向かわせる工夫が必要であるという当たり前のことを、再認識することができた。

最後に、この場をお借りして、本校SGH事業推進のためにご協力いただけてきた、文部科学省、岡山県教育委員会、運営指導委員やオブザーバー、岡山大学の教職員・学生の皆様、ベネッセ・コーポレーション、イングリッシュ・ティーチャーやコーディネーターの皆様、その他多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

# 目次

|       |                       |     |
|-------|-----------------------|-----|
| 第 1 章 | 平成30年度SGH研究開発実施報告（要約） | 1   |
|       | 1. 研究開発の目的・目標         |     |
|       | 2. 研究開発の概要            |     |
|       | 3. 平成30年度の実施規模        |     |
|       | 4. 研究開発の課題と仮説         |     |
|       | 5. 平成30年度の研究開発内容      |     |
|       | 6. 平成30年度の研究開発組織概念図   |     |
| 第 2 章 | SGH研究開発の成果と課題         | 6   |
|       | 1. 調査方法と結果            |     |
|       | 2. 研究仮説の検証            |     |
|       | 3. 研究成果の発信            |     |
|       | 4. 成果や課題              |     |
|       | 5. これまでの取組            |     |
| 第 3 章 | 実施報告                  |     |
| 第 1 節 | 「GLOBAL I」の実施         | 56  |
|       | 1. シラバス・年間指導計画の作成と共有  |     |
|       | 2. 実施概要               |     |
|       | 3. 課題研究(A群)           |     |
|       | 4. 課題研究(B群)           |     |
|       | 5. 講演会                |     |
| 第 2 節 | 「GLOBAL II」の実施        | 68  |
|       | 1. シラバス・年間指導計画の作成と共有  |     |
|       | 2. 実施概要               |     |
|       | 3. 課題研究               |     |
| 第 3 節 | 「GLOBAL III」の実施       | 76  |
|       | 1. シラバス・年間指導計画の作成と共有  |     |
|       | 2. 実施概要               |     |
|       | 3. 課題研究               |     |
| 第 4 節 | ホームページの運営             | 83  |
| 第 5 節 | JLPの取組                | 84  |
| 第 6 節 | 課題研究発表会               | 87  |
| 第 7 節 | 海外修学研修                | 90  |
|       | 1. 平成29年度の実施と生徒の報告    |     |
|       | 2. 平成30年度の実施（準備）      |     |
| 第 8 節 | 外部人材との連携              | 99  |
| 第 9 節 | 評価・検証                 | 100 |
|       | 1. 「GLOBAL I」の評価      |     |
|       | 2. 「GLOBAL II」の評価     |     |
|       | 3. 「GLOBAL III」の評価    |     |
|       | 4. 事業評価の研究開発          |     |
| 第10節  | 各種委員会の開催              | 108 |
|       | 1. SGH運営指導委員会         |     |
|       | 2. SGH企画委員会           |     |
|       | 3. SGH推進委員会           |     |
| 第11節  | 各種海外研修                | 114 |
|       | 1. 海外文化体験研修           |     |
|       | 2. 31期生学類研修           |     |
| 第12節  | 各種資格試験の受検状況と結果        | 117 |
| 生徒報告  | 「GLOBAL I」            | 118 |
|       | 「GLOBAL II」           | 122 |
|       | 「GLOBAL III」          | 130 |
| 関係資料  | 教育課程表                 | 135 |
|       | 学校自己評価アンケート           | 137 |

## 第1章 平成30年度SGH研究開発実施報告（要約）

### 1. 研究開発の目的・目標

#### （1）目的

グローバル化の進展に伴い、地球規模の課題解決や、異なる文化を背景とする国際社会の在り様が問われている。本校が積み重ねてきた、国際化の進展する社会でリーダーとして活躍する人材育成の教育の実績を生かし、グローバルな視野と主体的・協力的な実践力を備えた人材を育成することを目的として研究開発を行う。すなわち、国際社会や経済界、地域のリーダーとして、我が国及び人類の未来に貢献する資質・能力の土台づくりである。

※グローバルな視野

→ 地球俯瞰的思考力、異文化理解力、国際理解、日本人としてのアイデンティティ

※主体的・協力的な実践力

→ 積極性、チャレンジ精神、チーム力、語学力、コミュニケーション力

※これら二つの力の基礎となるもの

→ 幅広い教養、深い専門性、倫理観、公共性など

#### （2）目標

「グローバルな視野」として、地球的課題の理解、異文化の理解、日本や岡山の理解等を深める。また、「主体的・協力的な実践力」として、積極性やチャレンジ精神とともに、チーム力、特に異なる専門分野で協力する力を付ける。実践的スキル向上のため、海外体験や語学力への意識を高める。

そのために、本校の類型である4つの学類（人文社会、国際教養、音楽、理数）で培う専門力を深化させながら統合し、グローバルな課題の解決に向けて実践的な取組を行う教育課程等を研究開発する。

### 2. 研究開発の概要

#### （1）学類専門力を統合する「課題研究」

教科「GLOBAL」（科目「GLOBALⅠ」「GLOBALⅢ」）、および「GLOBALⅡ」を開発する。

「GLOBALⅠ」は、1年次生全員を対象とし、地域の状況やグローバルな課題に関する基礎知識と、探究型学習の基礎的技能を身に付ける。研究成果をもとに「課題研究発表会」を実施する。

「GLOBALⅡ」は、2年次生全員を対象とする。課題研究の柱となる科目であり、グローバルな課題を、学類を越えてチームを組み、岡山大学や経済界等と連携して行う。研究成果をもとに「課題研究発表会」を実施する。

「GLOBALⅢ」は、3年次生を対象とする選択科目で、「GLOBALⅡ」での研究を継承するなど、連携先を海外にも広げ、高度な課題研究を行う。

#### （2）専門性を深める「学類コア科目」等

これは学類必須科目である。「学類研修」と関係させながら、グローバルな観点から充実を図る。

#### （3）視野を広げ、実践力を高める「海外体験」

アジア圏及び国内で実施している「学類研修」で専門分野を深化させる。選抜チームによるイギリスでの「海外修学研修」を実施する。その成果が「GLOBALⅢ」につながる。

### 3. 平成30年度の実施規模

在籍者数：1074名（平成30年5月1日）

SGH対象生徒：1年次生（360名）、2年次生（359名）、3年次生（355名）

## 4. 研究開発の課題と仮説

### (1) 研究開発における課題

グローバルな社会や経済に関する課題解決に向けて、生徒の多彩な才能を生かすため、学類を越えてチームを組み、活動を進める必要がある。現在、学類での専門性を深める取組は比較的充実しているが、それらの専門力を統合する活動を充実させていく。グローバル・リーダーには、異なる領域を融合する力が求められている。

地方都市（岡山）では、グローバル化する社会を体験する機会が少ないことから、海外へ渡航し、実体験する機会の提供、異文化に触れる機会やグローバルに係る講演会の開催などを積極的に進める必要がある。

### (2) 研究開発の仮説

#### ① 仮説

「グローバルな社会や経済に関する課題研究」「学類での専門性を深める専門的学習」及び「海外での体験活動」をそれぞれ充実させながら、それらと密接に結びついた教育課程等を開発・充実していくことが目標達成につながる。

「グローバルな社会や経済に関する課題研究」（以下「課題研究」）は、学類を越えたメンバーでチームを組み、学類での専門力を合わせて行う探究型学習である。この学習により、課題を設定し主体的に考える力、異なる専門分野で協力する力、チームとして必要なリーダーシップとフォロワーシップ、コミュニケーション力などを身に付ける。また、「課題研究発表会」によりプレゼンテーション能力なども身に付ける。これが「専門的学習」の学びに広がりを与える。

「学類での専門性を深める専門的学習」（以下「専門的学習」）により、知的好奇心を喚起させ、深い専門性を身に付ける。また、思考力、判断力、創造力などを養成する。こうした力が「課題研究」を深みのあるものにする。専門性はグローバル・リーダーとして必要な力である。

「海外での体験活動」（以下「海外体験」）のうち、「学類研修」は「専門的学習」とリンクする。学類の専門性に関する研修であり、知的好奇心を刺激し、学習意欲を高める。また、「海外修学研修」は、「GLOBALⅡ」と「GLOBALⅢ」をつなぐ。「課題研究」の充実、海外の大学への進学等の意識の向上につながる。また、「海外文化体験研修」は、初めての海外体験として、異文化理解、語学力向上への意識の高まりとなる。

これら全ての活動を通して、地球的課題の理解、異文化の理解、日本や郷土岡山の理解など、グローバルな視野を醸成する。それが培った実践力と相まって、海外留学をしたり、海外の大学に進学したりする生徒の増加となる。

#### ② 課題と仮説の関係

学類を越えたチームでの活動が、学類の専門力を合わせる活動を充実させる契機となり、グローバル・リーダーとして求められる力の獲得につながる。

チームとしての活動や海外の同世代との交流が、生徒自らの才能の発見、個性伸長への刺激となり、自らの生き方・在り方の形成につながる。

「課題研究」「専門的学習」及び「海外体験」を関連づけ、その成果を含めた教育課程等により、実体験をふまえた、主体的・協力的で効率的・効果的な学びを推進する。

このような取組が、大学進学のための明確化にもつながり、全てにおいて意欲的で自主的・自律的な学びを推進する。

#### ③ 仮説の実施によって予想される成果

全ての教科・科目で、課題解決力、思考力、判断力、表現力、活用力を高める学習が推進される。この事業に、全教員が組織的に取り組むことにより、全ての教員が生徒の成長を実感し、この事業に直接関わる授業以外でも、生徒の自立的学習や言語活動を推進することとなる。

生徒のチャレンジ精神や主体的学習意欲が高まり、様々な分野でのコンテストや社会

貢献活動への自主的な挑戦や企画、参加が増加する。

こうしたことが学校全体の活性化につながり、グローバルな視野と主体的・協力的に活動する実践力を備えたグローバル・リーダー育成への本校に対する期待がさらに高まる。

## 5. 平成30年度の研究開発内容

### (1) 「GLOBAL I」

#### ① 研究開発の目的と期待される成果

1年次生全員を対象とし、情報収集の手法や情報機器の取扱いを学び、探究型学習やプレゼンテーションの実践を通して、その基礎となる知識や情報処理等の技能の習得を図る。また、課題研究を2回行うことで、テーマ決定→仮説→検証・評価→提言・実践という、探究型学習の流れを確立させる。

このことにより、2年次生で本格的に実施する課題研究の効率や学習成果を高めることにつながる。

#### ② 必要となる教育課程の特例とその適用範囲

平成26年度入学生より、全員を対象に年次進行で教育課程の特例を適用する。効果的に課題研究を実施するために、1年次生で「GLOBAL I」（3単位）を開設する。

「世界史A」「日本史A」「地理A」（いずれも1単位）、「家庭基礎」（2単位のうち1単位）、「社会と情報」（2単位のうち1単位）をそれぞれ減じて、学校設定教科「GLOBAL」、学校設定科目「GLOBAL I」（3単位）を開設する。

#### ③ 内容と方法

年度の前半は週2時間実施し、情報収集や情報機器の取扱い等の基礎的な技能の習得を図る。あわせて外部講師による講演会を聴講するなど、課題研究に向けたグローバルな課題に関する基礎知識を学ぶ。

年度の後半は週4時間実施し、5名程度の班を編成し、2回の課題研究に取り組む。それぞれ、ポスターセッションとプレゼンテーションソフトを利用した発表を行う。いずれも岡山大学の大学生や大学院生によるサポートを受ける。代表班は「課題研究発表会」において、ポスターセッションによる発表や、プレゼンテーションソフトを利用した発表を行う。

### (2) 「GLOBAL II」

#### ① 研究開発の目的と期待される成果

2年次生全員を対象とし、研究テーマについてチーム内のメンバーの専門性に基づき多面的にとらえ、深く考察し、意見を伝える力の向上を図るとともに、研究成果をまとめ、発表する力を身に付ける。

「学類研修」や「学類コア科目」等を活用したり、連携先からのフィードバックを受けたりしながら研究内容を深め、「課題研究発表会」や「海外修学研修」を見据えた学習を進めることにより、研究の実効性を高め、積極性や思考力・判断力・表現力・チーム力なども高める。また、主体的に考え、協力する力を育成することができる。

こうした取組を計画・実施していくことで、将来、様々な国際機関やグローバルな企業等で活躍することを希望する生徒の増加が期待できる。

#### ② 内容と方法

2年次生全員が同じ時間帯で、週2時間実施する。学類の枠を超えて6人程度の班を編成し、「経済・産業、国際貢献、環境・安全、教育・文化」の4つの研究領域に対し、それぞれ2つのテーマを設定し、その中から選択した研究テーマについて、学類の専門性を生かしながら意見を述べ、協力して研究を行う。

研究にあたっては、それぞれのテーマに詳しい岡山大学の教員と大学院生の協力を受

ける。外国人講師からは、英語を利用した研究や英語による発表の指導を受ける。

「学類研修」の準備における探究学習の成果も取り入れながら、必要に応じてフィールドワークや聞き取り調査を行う。研究の方向性や仮説の妥当性について検証しながら研究に取り組む。

10月には研究領域ごとに中間発表会を行い、研究の方向性や検証結果等について意見交換を行う。年度末には研究領域ごとの発表会で選ばれた代表が「課題研究発表会」において、ステージ発表あるいはプレゼンテーションソフトを利用した発表を行う。

### (3) 「GLOBALⅢ」

#### ① 研究開発の目的と期待される成果

生徒自身が研究テーマを設定し、「海外修学研修」で得たネットワーク等を活用し、研究に必要な情報収集や協力者を確保し、探究型学習を極める。「専門的学習」と「海外体験」の実績により、高度な思考力、コミュニケーション能力を身に付ける。グローバル人材育成に重点をおく大学や海外の大学へ進学する生徒の増加が期待できる。

#### ② 内容と方法

研究にあたっては、それぞれのテーマに詳しい外部の機関や有識者と連携し、協力を仰ぎながら、必要に応じてフィールドワークや聞き取り調査を行い、研究の方向性や仮説の妥当性について検証しつつ、研究を深める。研究成果は、エッセイやサマリー、またプレゼンテーションソフトを活用した発表資料として作成する。その研究成果を運営指導委員会や教育委員会、他校の発表会などに積極的に参加して発表する。なお、エッセイやサマリーの作成にあたっては、外国人講師から指導を受ける。

### (4) 「海外修学研修」

#### ① 研究開発の目的、仮説との関係、期待される成果

「GLOBALⅡ」での活動を通じて、選考されたメンバーをイギリスへ派遣し、学習の成果をもとに海外の大学、高校、国際機関等で意見交換を行うことにより、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を身に付ける。「GLOBALⅡ」の研究成果の活用とともに、「GLOBALⅢ」につながる研修である。

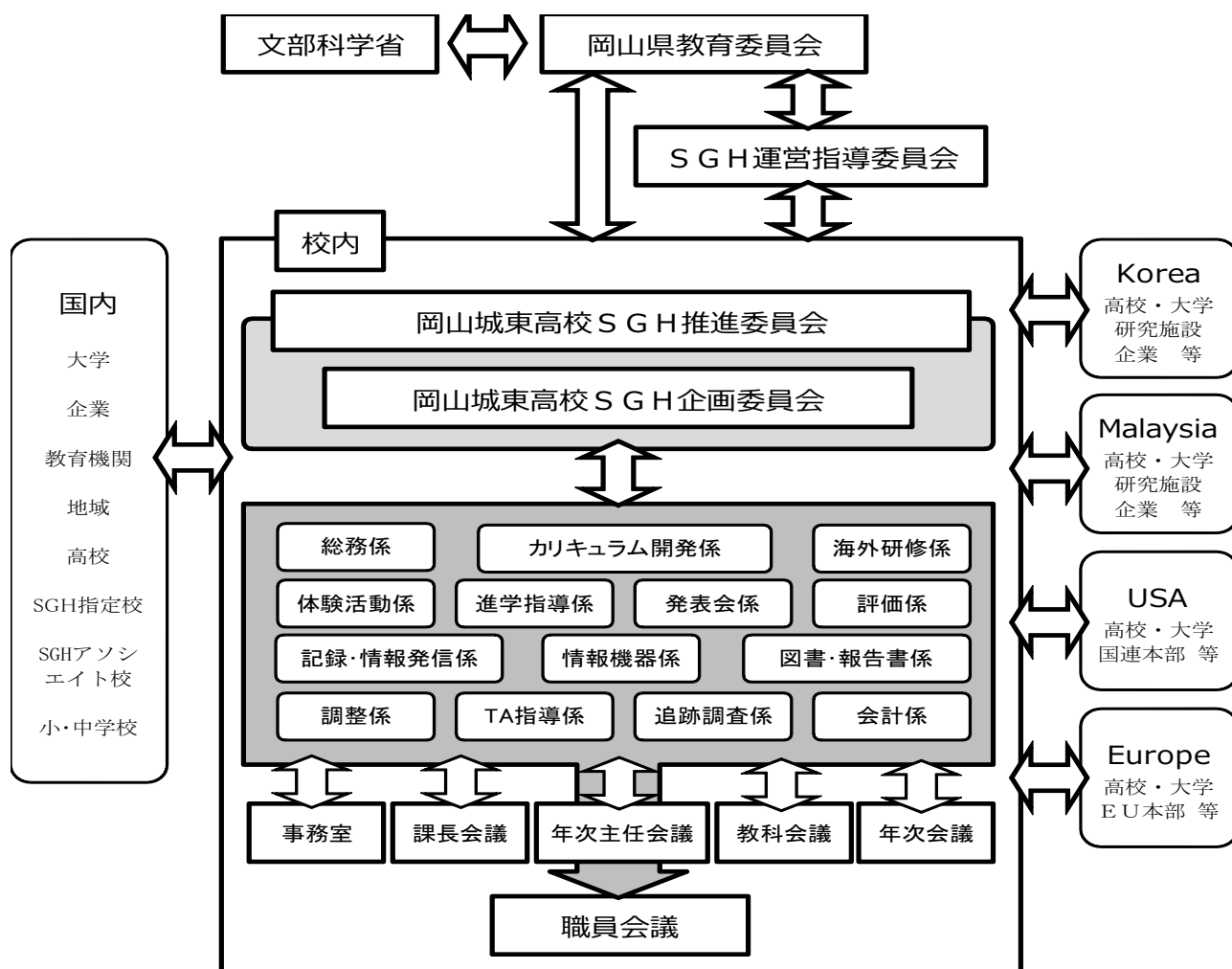
これらの活動を通して得られる経験や知識、ネットワークは将来グローバル・リーダーとして活躍するうえでの貴重な財産になる。

#### ② 内容

イギリスに2年次生10名を派遣する。派遣メンバーの決定については、2年次生から公募し、書類選考と口頭試問を経て決定する。派遣メンバーは、「GLOBALⅡ」等で取り組んだ課題研究の成果をもとに大学、高校、国際機関等で研修を行うとともに、フィールドワークを行う。

「海外修学研修派遣チーム」は帰国後、その体験や成果をまとめ、「海外修学研修報告会」で報告を行い、全校生徒でその成果を共有する。

## 6. 平成30年度の研究開発組織概念図



## 第2章 SGH研究開発の成果と課題

### 1. 調査方法と結果

#### (1) SGHに関する調査

##### ① 調査の概要

ベネッセコーポレーションや岡山大学と連携して作成した自己評価の生徒質問紙であり、課題設定能力、課題解決能力、論理的思考力、批判的思考力、表現力、受容力及び協働の7つの能力について、主に基礎、応用、発展の3つの質問を設定し「あてはまる」「どちらともいえない」「あてはまらない」のいずれかを回答するもの。平成26年度から5年間実施している。

##### ② 調査の結果

平成27年度から平成29年度までの3年間の結果をグラフで示した。

いずれの資質・能力も、基礎レベルは7割、応用レベルは5～6割、発展レベルは4～5割が「あてはまる」と回答した。

基礎レベル（図1）

「課題解決能力」「論理的思考力」「表現力」において「あてはまる」が高い。  
「批判的思考力」「受容力」において低い結果となっている。

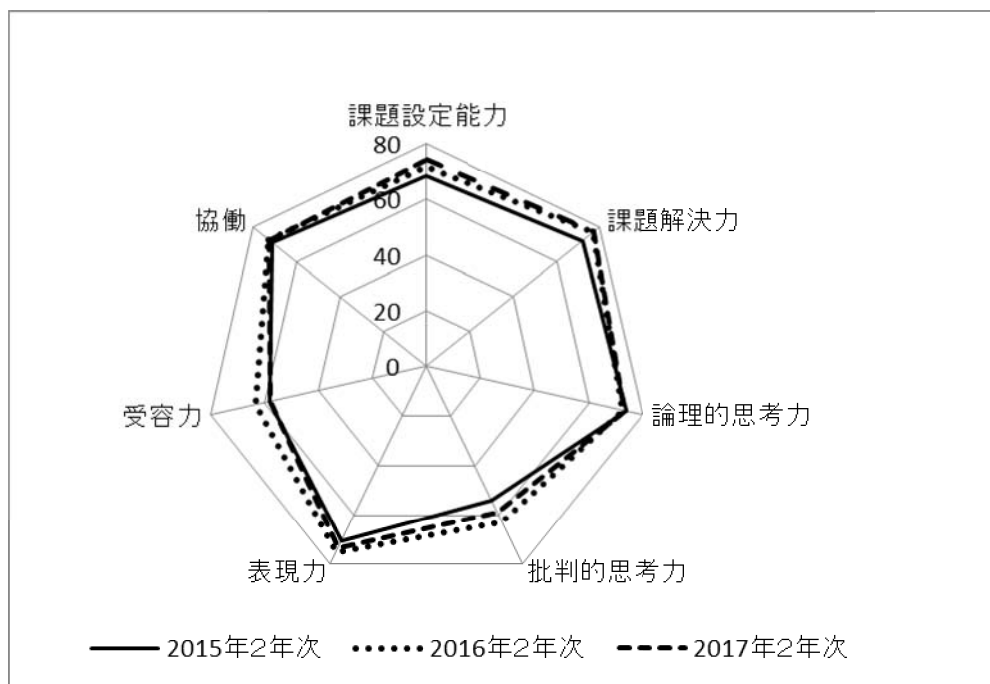


図1 基礎レベルのレーダーチャート図

### 応用レベル（図2）

「課題設定能力」「課題解決能力」「論理的思考力」「受容力」において「あてはまる」が高い。

「批判的思考力」「協働」は低い結果となっている。

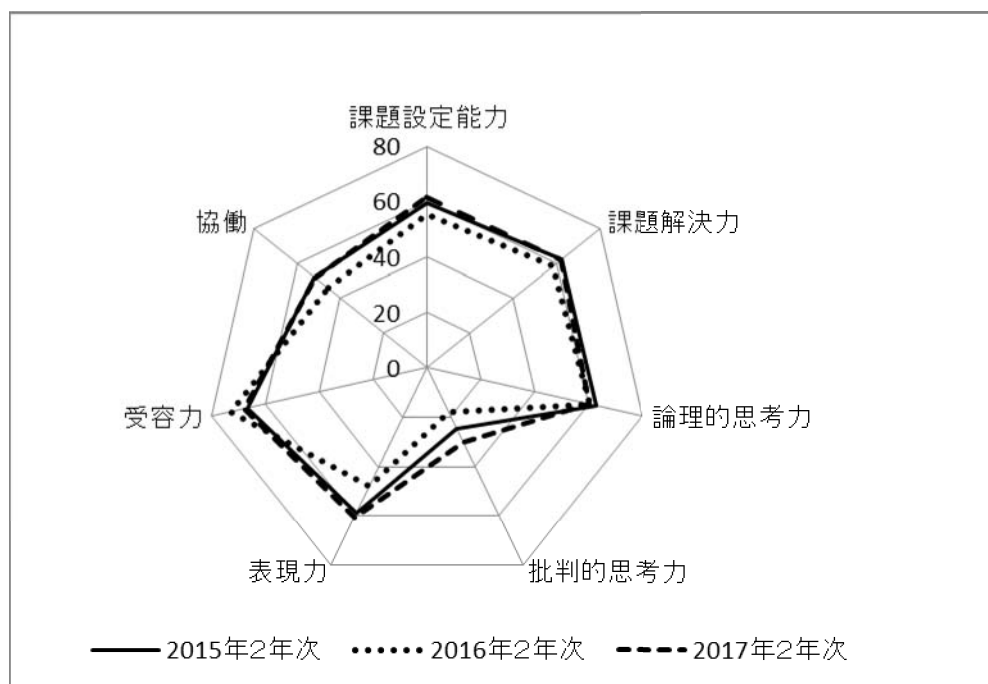


図2 応用レベルのレーダーチャート

### 発展レベル（図3）

「課題設定能力」「受容力」「協働」が高い。

「批判的思考力」「表現力」が低い結果となっている。

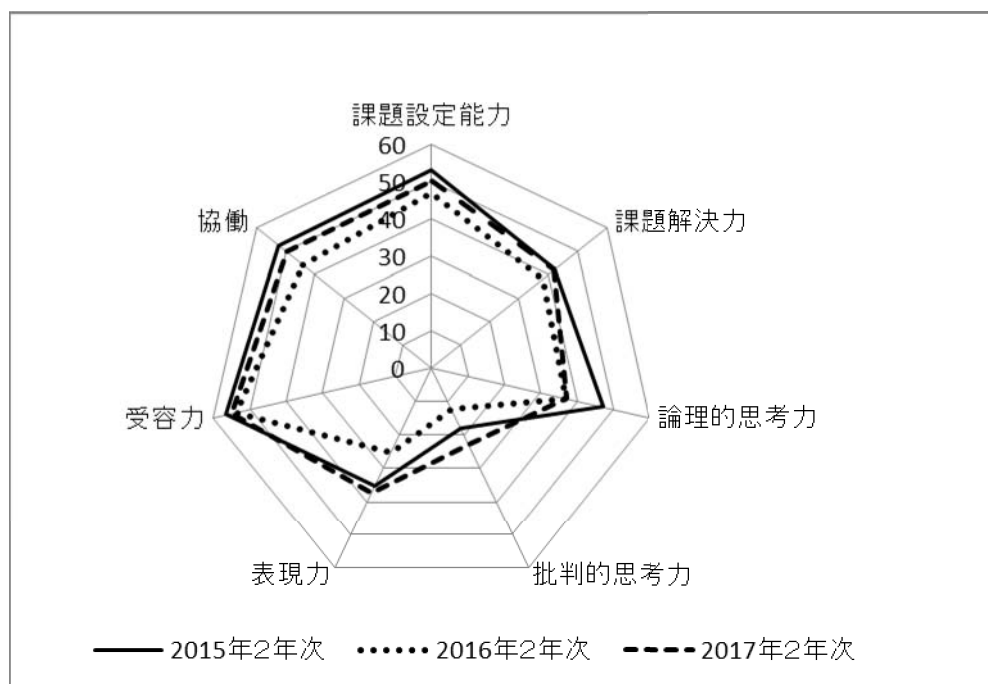


図3 発展レベルのレーダーチャート

### ③ 結果の分析等

この後にある資料から、本校のSGHの取り組みは次のような成果をもたらすことができたと考えられる。

第1に、図1のとおり7つの資質・能力の基礎レベルに関しては7割前後の生徒が「あてはまる」と回答している。

例えば「課題設定能力」の「『問い』を設定する手順や注意点について理解できた」、「課題解決能力」の「アンケートやインタビューなどによる実証データの集め方や、インターネットや書籍などからの情報収集の仕方など、調査研究の方法や手順、注意点について理解することができた」、「表現力」の「自分たちの発表を相手にしっかりと聞いてもらうために気をつけることについて、理解できた」など、高い自己評価を得られたことである。

第2に、1年次生から2年次生にかけて自己評価が上がっている項目は発展レベルに多く、発展的な資質・能力が高まっていると考えられることである。

後にある資料（「SGHに関する調査」4年間比較）の結果のとおり2年次生になると多くの項目で「あてはまる」と回答する生徒の割合が減少するが、それは2年次の課題研究の方が高いレベルの資質・能力を発揮することが求められているため、自己評価の基準が上がるからである。このような傾向があることは、2年次に自己評価を下げた生徒に対する聞き取りからも裏付けられた。

全体的には低下する傾向があるにもかかわらず、2年次生の方が自己評価が高まっている項目がある。後にある資料からそれを見ると、基礎レベルが1、応用レベルが1、発展レベルが9あり、発展レベルで2年次生の自己評価が高まっていることがわかる。

とりわけ、「課題設定能力」の「『問い』を設定するにあたって、複数の立場から問題点を検討したり、問題を自分事として引きつけて考えたりするなどして、グループで問題意識を深めることができた」（28期生：50.3%→52.9%、29期生：44.4%→46.7%）「受容力」の「相手の意見に対して、他の立場や別の視点から意見を述べるようにするなどして、いろいろなものの見方を探る、いろいろなものの見方を大事にするような話し合いをすることができた」（28期生：50.9%→56.6%、29期生：47.5%→53.8%、30期生：54.1%→54.9%）は、複数の年度の生徒において自己評価が上がっている。

課題研究を進める中で、課題を設定する局面から、その成果を発表する局面までどの局面においても、本校SGHの特色である「異力の統合」を意識し、学類を越えた話し合いと探究を重ねてきた成果だと考えている。

さらに、「批判的思考力」の「発表を聞きながら、自分でも様々な立場や視点から内容を検討し、論理性に欠ける点や検討が漏れている点があれば指摘するなどして、相手の発表をさらによくしていくような質問をすることができた」（28期：17.6%→18.1%、30期：21.3%→22.8%）も複数年度で増加している。他者の発表を批判的に聞くとともに、問題点を指摘し、改善を支援するという働きかけができるというのは、極めてレベルが高く、「あてはまる」の割合は多くはない。しかし、そうした力の必要性を鑑み、課題研究の授業やその発表会において、繰り返し「相手の発表をさらによくしていくような質問をする」ことを生徒に求めたことによって、こうした力を育成することができた。

第3に、本質問紙調査が適切に生徒の学びの成果を評価できているということである。7つの資質・能力を基礎、応用、発展にレベル分けすることによって、どのようなレベルで生徒に資質・能力が育成されたのかを評価することができた。また、質問紙に示されている資質・能力を発揮する生徒の具体的な学びの姿から指導目標を明確化でき、さらに重点的に指導した結果が生徒の自己評価の高まりとして現れるため、指導の改善に結びつけることもできた。今後も生徒の資質・能力の育ちを評価するために大いに活用することができるものである。

※ この「第2章1（1）SGHに関する調査」については、本校の運営指導委員会アドバイザーである中国学園大学住野好久副学長に分析していただき、作成しました。

SGHに係る調査

2年組番氏名

Q1 あなたは、将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考えていますか？

YES・NOどちらかに○印

Q2 今年度、夏休みなどの休業中に海外へ出かけましたか。(家族旅行は除く。語学留学など) 出かけた場合は、国名と期間を答えて下さい。

国名期間～

Q3 課題研究における調査・研究・資料収集について、以下のうちグループで利用したものや行った活動があれば、□に番号を記入してください。

- 1.新聞2.書籍3.インターネット4.論文5.講演会  
6.アンケート(生徒)7.アンケート(生徒以外)  
8.外部機関との連携(電話・メール)9.外部機関との連携(訪問・調査)  
10.体験を伴う活動

※2を選択した人は、何冊の書籍を利用したか回答して下さい。( )冊

※6～10を選択した人は、具体的な内容を記入して下さい。

| 番号 | 対象(連携先) | 具体的な内容 |
|----|---------|--------|
|    |         |        |
|    |         |        |
|    |         |        |
|    |         |        |
|    |         |        |

「GLOBAL II」におけるあなたの取り組み状況について質問します。アンケートの結果は、「GLOBAL II」の活動の振り返りや今後の指導改善の参考資料として利用します。あまり深く考え込まずに、自分の状況に一番近いものを回答してください。

Q4 あなたの研究グループはA～Hのどれですか。該当するものを○で囲んでください

A(地域経済)B(新しい産業)C(身近な国際貢献)D(世界の中の日本)  
E(資源をめぐる世界)F(安全・安心)G(初等教育)H(日本文化)

Q5 課題研究に関する以下の項目について、あなたの意見をお聞かせします。

それぞれ最も近いものを次の1～3の中から1つ選んで数字を○で囲んでください。

(1)「研究課題」の設定について

|    |                                                                                 | あてはまる | どちらともいえない | あてはまらない |
|----|---------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|---------|
| 理解 | 「研究課題」を設定する手順や注意点について理解することができた(先行研究を参考にするなど)                                   | 3     | 2         | 1       |
| 応用 | 「研究課題」を設定する手順や注意点について学んだことをいかして、自分たちが選んだ研究テーマについて「研究課題」を設定することができた              | 3     | 2         | 1       |
| 発展 | 「研究課題」を設定するにあたって、複数の立場から問題点を検討したり、問題を自分ごととして引きつけて考えたりするなどして、グループで問題意識を深めることができた | 3     | 2         | 1       |

(2) 調査研究について

|    |                                                                                       | あてはまる | どちらともいえない | あてはまらない |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|---------|
| 理解 | アンケートやインタビューなどによる実証データの集め方や、インターネットや書籍などからの情報収集の仕方など、調査研究の方法や手順、注意点について理解することができた     | 3     | 2         | 1       |
| 応用 | 調査研究の方法や手順、注意点について学んだことをいかして、自分たちが選んだ研究テーマに関する実証データの収集や論理構築のための情報収集を行うことができた          | 3     | 2         | 1       |
| 発展 | 結論の根拠として必要となるデータや情報のイメージをグループで話し合い、仮説をもって調査研究に取りかかることで、調査前にイメージしていた通りのデータや情報を得ることができた | 3     | 2         | 1       |

**Q 6 発表に関する以下の項目について、あなたの意見をお聞きます。**

それぞれ最も近いものを次の1～3の中から1つ選んで数字を○で囲んでください。

(1) 自分たちの研究内容を相手に理解してもらったことについて

|    |                                                                                      | あてはまる | どちらともいえない | あてはまらない |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|---------|
| 理解 | 自分たちの研究内容を相手に理解してもらったために必要な事柄(目的と結論、その根拠を示すこと、発表内容の構成など)について、理解することができた              | 3     | 2         | 1       |
| 応用 | 自分たちの研究内容を相手に理解してもらったために必要な事柄について学んだことをいかし、自分たちが選んだ研究テーマに関する発表内容をまとめることができた          | 3     | 2         | 1       |
| 発展 | 調査研究を通して集めたデータや情報、得られた知見などの中から、目的と結論を説明するために必要な情報だけを抜き出すことで、発表内容の論理構成を明確なものにすることができた | 3     | 2         | 1       |

(2) 自分たちの発表を相手にしっかりと聞いてもらうことについて

|    |                                                                                       | あてはまる | どちらともいえない | あてはまらない |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|---------|
| 理解 | 自分たちの発表を相手にしっかりと聞いてもらうために気をつけること(字の大きさ、余白の広さ、色の使い方、プレゼンテーションソフトの使い方など)について、理解することができた | 3     | 2         | 1       |
| 応用 | 自分たちの発表を相手にしっかりと聞いてもらうために気をつけることについて学んだことをいかし、自分たちが選んだ研究テーマに関する発表を行うことができた            | 3     | 2         | 1       |
| 発展 | 自分たちの発表を相手に興味関心をもって聞いてもらうためにはどうしたらよいかをグループで検討し、話す内容や伝え方に工夫を凝らした発表をすることができた            | 3     | 2         | 1       |

(3) 発表に対する質問について

|        |                                                                                              | あてはまる | どちらともいえない | あてはまらない |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|---------|
| 姿勢     | 質問することを考えながら、相手の発表を聞くことができた                                                                  | 3     | 2         | 1       |
| 内容面の質問 | 発表を聞いて、話のつながりが理解できなかった点や内容に関して疑問をもった点など、自分が十分に理解できなかったことについて質問をすることができた                      | 3     | 2         | 1       |
| 発展的な質問 | 発表を聞きながら、自分でもさまざまな立場や視点から内容を検討し、論理性に欠ける点や検討が漏れている点があれば指摘するなどして、相手の発表をさらに良くしていくような質問をすることができた | 3     | 2         | 1       |

**Q 7 グループ活動に関する以下の項目について、あなたの意見をお聞きます。**

それぞれ最も近いものを次の1～3の中から1つ選んで数字を○で囲んでください。

(1) グループでの話し合いについて

|        |                                                                                                  | あてはまる | どちらともいえない | あてはまらない |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|---------|
| 意思疎通   | メンバー全員が何か1つでも自分の意見を述べるようにするなどして、お互いにどんなことを考えているかを共有できるような話し合いをすることができた                           | 3     | 2         | 1       |
| 相互理解   | 自分の意見を言うだけでなく、相手の意見を聞いて、相手の意見が補足したり、相手と自分の意見の違いを整理したりするなどして、お互いに理解を深めていくような話し合いをすることができた         | 3     | 2         | 1       |
| 多面的な検討 | 相手の意見に対して、他の立場や別の視点から意見を述べるようにするなどして、いろいろなものの見方を探る、いろいろなものの見方を大事にする(特定の意見に流されない)ような話し合いをすることができた | 3     | 2         | 1       |

(2) グループでの活動や役割分担について

|        |                                                                                               | あてはまる | どちらともいえない | あてはまらない |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|---------|
| 責任を果たす | 先生から指示されたことや、グループの中で自分が果たすべき役割など、自分が責任をもって行うべきことについては十分にその責任を果たすことができた                        | 3     | 2         | 1       |
| 自主的行動  | 先生から指示されたことや自分の責任を果たすことだけにとどまらず、グループの状況を見て、自分ができることやもつことこうしたらよいと思ったことを率先して提案したり、実行したりすることができた | 3     | 2         | 1       |
| 組織的行動  | 自分が率先して行動するだけでなく、他の人が動きやすいように、自分の動きを他の人に知らせたり、他の人に仕事をお願いしたりすることによって互いに協力しながら活動することができた        | 3     | 2         | 1       |

**Q 8 「GLOBAL II」の取り組み全般について、あなたの意見をお聞きます。**

それぞれ最も近いものを次の1～5の中から1つ選んで数字を○で囲んでください。

(1) 「GLOBAL II」の取り組み状況について

|                             | とてもそう思う | まあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | 全く思わない |
|-----------------------------|---------|--------|-----------|-----------|--------|
| 1) 「GLOBAL II」の活動に積極的に取り組んだ | 5       | 4      | 3         | 2         | 1      |
| 2) 「GLOBAL II」の活動は楽しかった     | 5       | 4      | 3         | 2         | 1      |

(2) 「GLOBAL II」の活動全体を通して、自分なりに工夫した点や苦労した点など、活動の中で印象に残っている事柄を自由に記入してください。

|  |
|--|
|  |
|--|



## 2. 課題解決力

|                                                                                                     |              |      |      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------|------|
| <b>①理解</b><br>アンケートやインタビューなどによる実証データの集め方や、インターネットや書籍などからの情報収集の仕方など、調査研究の方法や手順、注意点について理解することができた     | 2014(28期) 1年 | 84.4 | 15.1 |
|                                                                                                     | 2015(28期) 2年 | 72.1 | 26.7 |
|                                                                                                     | 2015(29期) 1年 | 88.1 | 10.5 |
|                                                                                                     | 2016(29期) 2年 | 76.9 | 20.7 |
|                                                                                                     | 2016(30期) 1年 | 88.1 | 11.0 |
|                                                                                                     | 2017(30期) 2年 | 77.4 | 20.8 |
|                                                                                                     | 2017(31期) 1年 | 73.1 | 23.4 |
|                                                                                                     |              |      |      |
| <b>②応用</b><br>調査研究の方法や手順、注意点について学んだことをいかして、自分たちが選んだ研究テーマに関する実証データの収集や論理構築のための情報収集を行うことができた          | 2014(28期) 1年 | 69.3 | 29.5 |
|                                                                                                     | 2015(28期) 2年 | 62.6 | 33.3 |
|                                                                                                     | 2015(29期) 1年 | 71.2 | 26.6 |
|                                                                                                     | 2016(29期) 2年 | 58.4 | 39.2 |
|                                                                                                     | 2016(30期) 1年 | 64.6 | 33.2 |
|                                                                                                     | 2017(30期) 2年 | 61.9 | 34.2 |
|                                                                                                     | 2017(31期) 1年 | 59.4 | 38.3 |
|                                                                                                     |              |      |      |
| <b>③発展</b><br>結論の根拠として必要となるデータや情報のイメージをグループで話し合い、仮説をもって調査研究に取りかかることで、調査前にイメージしていた通りのデータや情報を得ることができた | 2014(28期) 1年 | 44.3 | 49.4 |
|                                                                                                     | 2015(28期) 2年 | 42.2 | 49.1 |
|                                                                                                     | 2015(29期) 1年 | 41.8 | 47.5 |
|                                                                                                     | 2016(29期) 2年 | 38.3 | 51.8 |
|                                                                                                     | 2016(30期) 1年 | 40.3 | 51.6 |
|                                                                                                     | 2017(30期) 2年 | 42.0 | 51.2 |
|                                                                                                     | 2017(31期) 1年 | 37.9 | 54.7 |
|                                                                                                     |              |      |      |

## 3. 論理的思考力

|                                                                                                    |              |      |      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------|------|
| <b>①理解</b><br>自分たちの研究内容を相手に理解してもらうために必要な事柄（目的と結論、その根拠を示すこと、発表内容の構成など）について、理解することができた               | 2014(28期) 1年 | 83.8 | 15.6 |
|                                                                                                    | 2015(28期) 2年 | 73.9 | 25.0 |
|                                                                                                    | 2015(29期) 1年 | 81.6 | 16.1 |
|                                                                                                    | 2016(29期) 2年 | 72.7 | 26.4 |
|                                                                                                    | 2016(30期) 1年 | 83.4 | 16.3 |
|                                                                                                    | 2017(30期) 2年 | 73.2 | 24.5 |
|                                                                                                    | 2017(31期) 1年 | 76.1 | 23.0 |
|                                                                                                    |              |      |      |
| <b>②応用</b><br>自分たちの研究内容を相手に理解してもらうために必要な事柄について学んだことをいかし、自分たちが選んだ研究テーマに関する発表内容をまとめることができた           | 2014(28期) 1年 | 73.6 | 25.6 |
|                                                                                                    | 2015(28期) 2年 | 62.9 | 33.6 |
|                                                                                                    | 2015(29期) 1年 | 70.9 | 26.6 |
|                                                                                                    | 2016(29期) 2年 | 60.7 | 36.6 |
|                                                                                                    | 2016(30期) 1年 | 74.0 | 25.4 |
|                                                                                                    | 2017(30期) 2年 | 60.5 | 36.5 |
|                                                                                                    | 2017(31期) 1年 | 61.3 | 36.5 |
|                                                                                                    |              |      |      |
| <b>③発展</b><br>調査研究を通して集めたデータや情報、得られた知見などの中から、目的と結論を説明するために必要な情報だけを抜き出すことで、発表内容の論理構成を明確なものにすることができた | 2014(28期) 1年 | 46.9 | 48.0 |
|                                                                                                    | 2015(28期) 2年 | 47.1 | 48.6 |
|                                                                                                    | 2015(29期) 1年 | 40.4 | 48.6 |
|                                                                                                    | 2016(29期) 2年 | 37.0 | 56.0 |
|                                                                                                    | 2016(30期) 1年 | 45.5 | 47.6 |
|                                                                                                    | 2017(30期) 2年 | 37.2 | 54.3 |
|                                                                                                    | 2017(31期) 1年 | 31.8 | 59.1 |
|                                                                                                    |              |      |      |

## 4. 批判的思考力

|                                                                                                                |              |      |      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------|------|
| <b>①姿勢</b><br>質問することを考えながら、相手の発表を聞くことができた                                                                      | 2014(28期) 1年 | 60.8 | 32.4 |
|                                                                                                                | 2015(28期) 2年 | 54.3 | 37.6 |
|                                                                                                                | 2015(29期) 1年 | 68.6 | 23.4 |
|                                                                                                                | 2016(29期) 2年 | 62.9 | 33.2 |
|                                                                                                                | 2016(30期) 1年 | 74.3 | 20.7 |
|                                                                                                                | 2017(30期) 2年 | 58.7 | 36.6 |
|                                                                                                                | 2017(31期) 1年 | 68.9 | 25.9 |
|                                                                                                                |              |      |      |
| <b>②内容面の質問</b><br>発表を聞いて、話のつながりが理解できなかった点や内容に関して疑問をもった点など、自分が十分に理解できなかったことについて質問をすることができた                      | 2014(28期) 1年 | 32.7 | 34.9 |
|                                                                                                                | 2015(28期) 2年 | 24.7 | 35.1 |
|                                                                                                                | 2015(29期) 1年 | 32.8 | 35.3 |
|                                                                                                                | 2016(29期) 2年 | 18.3 | 37.7 |
|                                                                                                                | 2016(30期) 1年 | 41.7 | 35.1 |
|                                                                                                                | 2017(30期) 2年 | 30.3 | 38.6 |
|                                                                                                                | 2017(31期) 1年 | 34.7 | 39.2 |
|                                                                                                                |              |      |      |
| <b>③発展的な質問</b><br>発表を聞きながら、自分でもさまざまな立場や視点から内容を検討し、論理性に欠ける点や検討が漏れている点があれば指摘するなどして、相手の発表をさらに良くしていくような質問をすることができた | 2014(28期) 1年 | 17.6 | 46.3 |
|                                                                                                                | 2015(28期) 2年 | 18.1 | 39.4 |
|                                                                                                                | 2015(29期) 1年 | 16.1 | 39.0 |
|                                                                                                                | 2016(29期) 2年 | 12.3 | 38.3 |
|                                                                                                                | 2016(30期) 1年 | 21.3 | 40.9 |
|                                                                                                                | 2017(30期) 2年 | 22.8 | 44.4 |
|                                                                                                                | 2017(31期) 1年 | 19.1 | 44.4 |
|                                                                                                                |              |      |      |

## 5. 表現力

|                                                                                                     |              |      |      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------|------|
| <b>①理解</b><br>自分たちの発表を相手にしっかりと聞いてもらうために気をつけること（字の大きさ、余白の広さ、色の使い方、プレゼンテーションソフトの使い方など）について、理解することができた | 2014(28期) 1年 | 87.5 | 11.9 |
|                                                                                                     | 2015(28期) 2年 | 70.4 | 26.1 |
|                                                                                                     | 2015(29期) 1年 | 87.0 | 12.1 |
|                                                                                                     | 2016(29期) 2年 | 75.4 | 22.2 |
|                                                                                                     | 2016(30期) 1年 | 87.5 | 11.9 |
|                                                                                                     | 2017(30期) 2年 | 73.5 | 24.5 |
|                                                                                                     | 2017(31期) 1年 | 82.1 | 16.5 |
|                                                                                                     |              |      |      |
| <b>②応用</b><br>自分たちの発表を相手にしっかりと聞いてもらうために気をつけることについて学んだことをいかし、自分たちが選んだ研究テーマに関する発表を行うことができた            | 2014(28期) 1年 | 67.9 | 29.8 |
|                                                                                                     | 2015(28期) 2年 | 58.6 | 36.5 |
|                                                                                                     | 2015(29期) 1年 | 64.7 | 31.6 |
|                                                                                                     | 2016(29期) 2年 | 47.9 | 49.1 |
|                                                                                                     | 2016(30期) 1年 | 69.3 | 28.8 |
|                                                                                                     | 2017(30期) 2年 | 60.5 | 36.5 |
|                                                                                                     | 2017(31期) 1年 | 56.4 | 40.7 |
|                                                                                                     |              |      |      |
| <b>③発展</b><br>自分たちの発表を相手に興味関心をもって聞いてもらうためにはどうしたらよいかをグループで検討し、話す内容や伝え方に工夫を凝らした発表をすることができた            | 2014(28期) 1年 | 36.1 | 52.6 |
|                                                                                                     | 2015(28期) 2年 | 35.3 | 51.1 |
|                                                                                                     | 2015(29期) 1年 | 33.9 | 48.0 |
|                                                                                                     | 2016(29期) 2年 | 25.1 | 63.2 |
|                                                                                                     | 2016(30期) 1年 | 37.8 | 48.8 |
|                                                                                                     | 2017(30期) 2年 | 37.2 | 54.3 |
|                                                                                                     | 2017(31期) 1年 | 34.6 | 52.9 |
|                                                                                                     |              |      |      |

## 6. 受容力

|                                                                                                                    |              |      |      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------|------|
| <b>①意思疎通</b><br>メンバー全員が何か1つでも自分の意見を述べるようにするなどして、お互いにどんなことを考えているかを共有できるような話し合いをすることができた                             | 2014(28期) 1年 | 69.0 | 27.8 |
|                                                                                                                    | 2015(28期) 2年 | 58.0 | 32.8 |
|                                                                                                                    | 2015(29期) 1年 | 76.0 | 20.6 |
|                                                                                                                    | 2016(29期) 2年 | 63.2 | 32.3 |
|                                                                                                                    | 2016(30期) 1年 | 78.4 | 19.4 |
|                                                                                                                    | 2017(30期) 2年 | 57.8 | 35.7 |
|                                                                                                                    | 2017(31期) 1年 | 71.5 | 26.5 |
|                                                                                                                    |              |      |      |
| <b>②相互理解</b><br>自分の意見を言うだけでなく、相手の意見を聞いて、相手の意見を補足したり、相手と自分の意見の違いを整理したりするなどして、お互いに理解を深めていくような話し合いをすることができた           | 2014(28期) 1年 | 73.3 | 25.0 |
|                                                                                                                    | 2015(28期) 2年 | 66.4 | 27.9 |
|                                                                                                                    | 2015(29期) 1年 | 66.7 | 28.8 |
|                                                                                                                    | 2016(29期) 2年 | 72.8 | 24.9 |
|                                                                                                                    | 2016(30期) 1年 | 79.4 | 19.1 |
|                                                                                                                    | 2017(30期) 2年 | 67.8 | 26.5 |
|                                                                                                                    | 2017(31期) 1年 | 65.0 | 32.2 |
|                                                                                                                    |              |      |      |
| <b>③多面的な検討</b><br>相手の意見に対して、他の立場や別の視点から意見を述べるようにするなどして、いろいろなものの見方を探る、いろいろなものの見方を大事にする（特定の意見に流されない）ような話し合いをすることができた | 2014(28期) 1年 | 50.9 | 42.9 |
|                                                                                                                    | 2015(28期) 2年 | 56.6 | 34.8 |
|                                                                                                                    | 2015(29期) 1年 | 47.5 | 39.8 |
|                                                                                                                    | 2016(29期) 2年 | 53.8 | 41.1 |
|                                                                                                                    | 2016(30期) 1年 | 54.1 | 41.6 |
|                                                                                                                    | 2017(30期) 2年 | 54.9 | 39.5 |
|                                                                                                                    | 2017(31期) 1年 | 40.5 | 52.3 |
|                                                                                                                    |              |      |      |

## 7. 協働

|                                                                                                               |              |      |      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------|------|
| <b>①責任を果たす</b><br>先生から指示されたことや、グループの中で自分が果たすべき役割など、自分が責任をもって行うべきことについては十分にその責任を果たすことができた                      | 2014(28期) 1年 | 79.8 | 17.6 |
|                                                                                                               | 2015(28期) 2年 | 71.3 | 25.3 |
|                                                                                                               | 2015(29期) 1年 | 83.6 | 15.5 |
|                                                                                                               | 2016(29期) 2年 | 73.1 | 24.3 |
|                                                                                                               | 2016(30期) 1年 | 83.8 | 13.4 |
|                                                                                                               | 2017(30期) 2年 | 72.5 | 26.0 |
|                                                                                                               | 2017(31期) 1年 | 78.4 | 21.6 |
|                                                                                                               |              |      |      |
| <b>②自主的行動</b><br>先生から指示されたことや自分の責任を果たすことだけにとどまらず、グループの状況を見て、自分ができることやもっとこうしたらよいと思ったことを率先して提案したり、実行したりすることができた | 2014(28期) 1年 | 52.6 | 40.6 |
|                                                                                                               | 2015(28期) 2年 | 52.3 | 40.8 |
|                                                                                                               | 2015(29期) 1年 | 49.4 | 39.8 |
|                                                                                                               | 2016(29期) 2年 | 45.8 | 44.3 |
|                                                                                                               | 2016(30期) 1年 | 56.6 | 36.9 |
|                                                                                                               | 2017(30期) 2年 | 51.6 | 41.6 |
|                                                                                                               | 2017(31期) 1年 | 42.8 | 49.4 |
|                                                                                                               |              |      |      |
| <b>③組織的行動</b><br>自分が率先して行動するだけでなく、他の人が動きやすいように、自分の動きを他の人に知らせたり、他の人に仕事をお願いしたりすることで互いに協力しながら活動することができた          | 2014(28期) 1年 | 59.0 | 35.9 |
|                                                                                                               | 2015(28期) 2年 | 52.6 | 39.1 |
|                                                                                                               | 2015(29期) 1年 | 48.0 | 40.1 |
|                                                                                                               | 2016(29期) 2年 | 44.3 | 44.6 |
|                                                                                                               | 2016(30期) 1年 | 56.3 | 35.6 |
|                                                                                                               | 2017(30期) 2年 | 49.9 | 43.1 |
|                                                                                                               | 2017(31期) 1年 | 43.3 | 47.9 |
|                                                                                                               |              |      |      |

## (2) GPS-Academic

### ① 調査の概要

ベネッセコーポレーションの「GPS-Academic」は「選択・記述式」、「論述式」、「アンケート」の3つのテストからなっている。実施時期は12月で対象を1・2年次生とした。「GPS-Academic」では「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」の3つの観点で生徒の能力を分析する。

### ② 調査の結果

表1 平成28年度（平成28年12月20日実施）調査の結果

|           | 批判的思考力 |            |               | 協働的思考力 |                 |               | 創造的思考力 |               |                |
|-----------|--------|------------|---------------|--------|-----------------|---------------|--------|---------------|----------------|
|           | 総合評価   | 情報を抽出し吟味する | 論理的に組み立てて表現する | 総合評価   | 他者との共通点・違いを理解する | 社会に参画し人と関わりあう | 総合評価   | 情報を関連づける・類推する | 問題をみだし解決策を生み出す |
| H28       |        |            |               |        |                 |               |        |               |                |
| SとAの割合の合計 | 22.1%  | 42.1%      | 0.0%          | 40.9%  | 32.2%           | 25.7%         | 30.2%  | 22.8%         | 18.4%          |

本校での取組をはじめて3年目であり、その間、本校で課題とされている批判的思考力の改善に学校全体で取り組んでいた。その結果からか、批判的思考力の総合評価について、SとAの割合の合計は非SGH校のSとAの割合の合計の平均値を上回っていた。

また、協働的思考力や創造的思考力についても同様に、総合評価についてはSとAの割合の合計が、非SGH校のSとAの割合の合計の平均値を大きく上回っており、SGHでの成果と考えている。

【非SGH校平均値 批判的思考力(11%)、協働的思考力(28%)、創造的思考力(16%)】

しかしながら、どの思考力についても、他のSGH校のSとAの割合の合計の平均値より、2～5ポイント程度低い結果にあった。

表2 平成29年度（平成29年12月19日実施）調査の結果

|           | 批判的思考力 |            |               | 協働的思考力 |                 |               | 創造的思考力 |               |                |
|-----------|--------|------------|---------------|--------|-----------------|---------------|--------|---------------|----------------|
|           | 総合評価   | 情報を抽出し吟味する | 論理的に組み立てて表現する | 総合評価   | 他者との共通点・違いを理解する | 社会に参画し人と関わりあう | 総合評価   | 情報を関連づける・類推する | 問題をみだし解決策を生み出す |
| H29       |        |            |               |        |                 |               |        |               |                |
| SとAの割合の合計 | 20.9%  | 27.6%      | 1.9%          | 21.1%  | 32.5%           | 1.5%          | 38.5%  | 36.7%         | 24.7%          |

批判的思考力の総合評価については、非SGH校の学校のSとAの割合の合計の平均値を上回っていた。特に29年度については、協働的思考力はSGH校のSとAの割合の合計の平均値を下回っていたが、創造的思考力についてはSGH校のSとAの割合の合計の平均値を上回っていた。

【非SGH校平均値 批判的思考力(18.5%)】【SGH校平均値 創造的思考力(38.1%)】

### ③ 結果の分析等

批判的思考力については、毎年度1・2年次生に実施する「SGHに関する調査」から、肯定的な回答の割合が低かったので、課題研究の授業、中間発表、最終発表や課題研究発表会などで繰り返し質問をさせたり、多くの教科が授業の中で生徒が質問する場面を取り入れたりするなどして、学校全体で取り組んできた。こうしたことから、非SGH校よりSとAの割合の合計が高くなったと考えている。また、創造的思考力の「問題をみだし解決策を生み出す」のSとAの割合の合計がSGH校のSとAの割合の合計の平均値と比較しても高く、本校の課題研究が「高校生にできる解決策を提言する」ことを意識して取り組んだことが影響しているといえる。

### (3) SGH意識調査

#### ① 調査の概要

平成29年度に、課題研究、学類コア科目、海外での体験活動それぞれの活動が、SGHで目指す能力の伸長に効果があるかどうかを調べるために、生徒を対象にアンケート調査をした。

課題研究では、課題研究における様々な取組と身に付けさせたい能力との関係を、学類コア科目では、目指す能力の育成につながるかを調査した。また、SGHの取組全体と、海外での学習意欲や異文化理解との関連を調査した。

#### ② 調査の方法

本校では、課題研究、学類コア科目、海外での体験活動を通じて身に付けさせたい力を課題研究では、(ア) 主体性 (イ) チーム力 (ウ) コミュニケーション能力 (エ) プレゼンテーション能力、学類コア科目では、(ア) 知的好奇心の喚起 (イ) 専門性の深化 (ウ) 思考力・判断力・創造力、海外での体験活動では、(ア) 海外での学習意欲 (イ) 異文化理解 (ウ) 語学力の向上、としており、それぞれについて質問をして、当てはまるかどうかを答えさせた。

＜課題研究＞ (ア) から (エ) の肯定的な回答の割合は次のとおりである。

- (ア) 研究に積極的に取り組んだり、困難な課題にもチャレンジしたりできるようになった。  
(イ) グループの状況を見て、自分ができることや、もっとこうしたらよいと思ったことを率先して提案できるようになった。  
(ウ) 研究のプロセスで、グループ内で意見交換が活発にできるようになった。  
(エ) 他者に理解しやすくなるように、発表内容や伝え方の工夫ができるようになった。

図4からは、どの質問も肯定的な回答の割合が70%を超えており、多くの生徒が課題研究で力が付いたと評価している。

この意識調査では記述式の質問もあったが、その回答には次のように、生徒の成長を実感できる内容のものが多くあった。

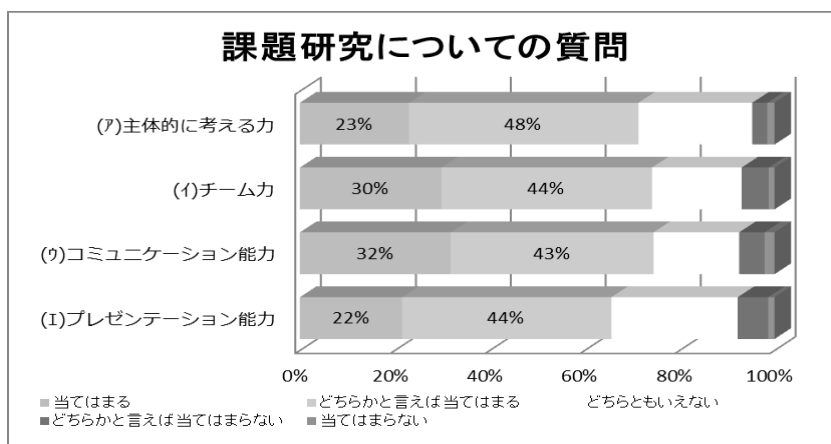


図4 課題研究についての質問の結果

- ・ 1つのことに向き合い、最後まで粘り強く考えることが出来るようになった。
- ・ 他の人の発表を常に批判的にとらえていたので、他の教科の学習でも批判的にとらえることが出来るようになった。
- ・ 自分の視点だけでなく、他の人はどのように見るかといった視点で考えるようになった。

＜学類コア科目の学習＞次の(ア)から(ウ)について当てはまるかどうかを選択させたところ、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は次のとおりである。

- (ア) 学習に対する知的好奇心が喚起された。(知的好奇心の喚起)  
 (イ) 学類の専門性が深化した。(専門性の深化)  
 (ウ) 思考力や判断力、創造力が養成された。(思考力・判断力・創造力)

3つの質問に対して、図5のとおり肯定的な回答が6割を超えており、学類での専門的な学習を通じて、興味関心の高まりや、自分の学類の専門性や思考力が向上していることを、多くの生徒が認識していることが伺えた。

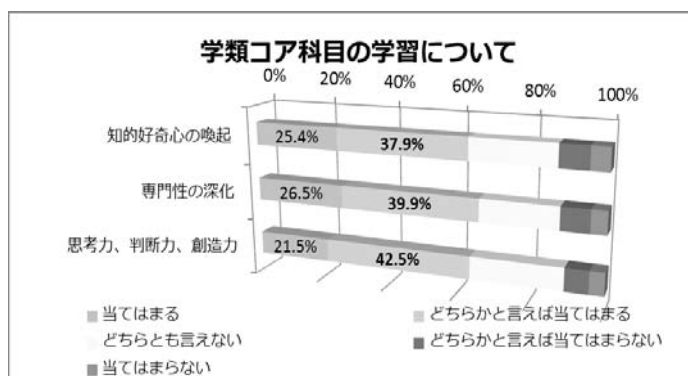


図5 学類コア科目の学習についての結果

またSGHに関連する学習や行事について次の(ア)から(ウ)について当てはまるかどうかを選択させたところ、「当てはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と回答した割合は次のとおりである。

- (ア) 留学や進学など、海外で学びたいといった意識が向上した。(海外での学習意欲)  
 (イ) 異なる文化についても違いを認めたり、互いを尊重したりする、異文化に対する理解が深まった。(異文化理解)  
 (ウ) 語学力が向上した。(語学力の向上)

図6のとおり、(イ)については、70%以上の生徒が異文化の理解が深まったと評価している。また(ア)についても50%程度の生徒が海外で学びたいといった意識をもっており、SGHの取組からグローバルな視野は広がっていると考えられる。

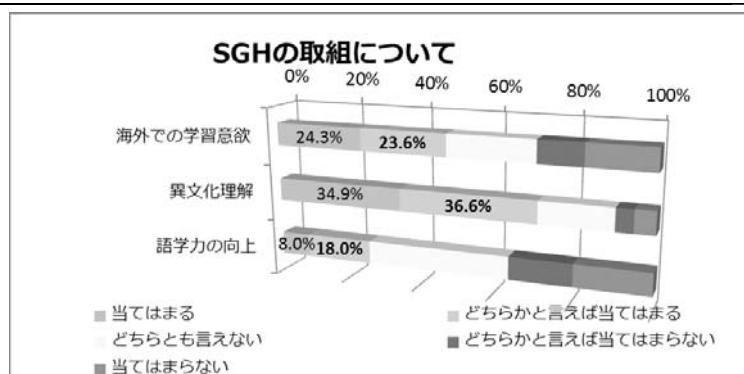


図6 SGHの取組についての調査結果

次に、課題研究に関する調査の結果と、課題研究の取組との関連を調べるため、「課題研究の学習活動で力を注いだもの」を次から選択させた。

- ① 先行事例の研究      ② リサーチクエスションの設定      ③ 調査・実験  
 ④ 議論      ⑤ フィールドワーク      ⑥ 論文・レポート作成  
 ⑦ 異なる学類でのグループ活動      ⑧ 中間発表      ⑨ 最終発表  
 ⑩ 大学院生や大学の先生との質疑 (複数選択可)

①から⑩の項目それぞれで、力を注いだと回答した生徒と、注いだと回答しなかった生徒をグループ分けした。次に(ア)～(エ)の回答について、「当てはまる」を5、「どちらかと言えば当てはまる」を4、「どちらとも言えない」を3、「どちらかと言えば当てはらない」を2、「当てはまらない」を1として、前述のグループごとに(ア)～(エ)それぞれの回答の平均値を求めた。次に①から⑩の全ての項目について、(ア)～(エ)それぞれで「力を注いだと回答した生徒の平均値」÷「力を注いだと回答しなかった生徒の平均値」を計算し、パーセントで表した。

数値が大きいほど、(ア)～(エ)の質問で、力を注いだと回答した生徒と回答しなかった生徒の平均値が離れていることになる。

(ア)～(エ)それぞれで、上位2つに色付けをしているが、表3のとおり②リサーチクエスションの設定に力を注いだ生徒は、そうでない生徒に対して、(ア)～(エ)全ての力で平均値の乖離が、他の項目より高くでている。課題研究において、リサーチクエスションを設定することの重要性が分かった。また、この結果から、「主体性」を高めるためには、発表に力を注ぐことが効果的であること、同様に、チーム力を高めるにはフィールドワークに力を注ぐこと、コミュニケーション能力を高めるには議論に力を注ぐこと、プレゼンテーション能力を高めるには、発表に力を注ぐことが効果的であると考えられる。

表3 課題研究で力を注いだことと、課題研究で身に付けさせたい力との関連

| ① 先行事例の研究 ② リサーチクエスションの設定<br>③ 調査・実験 ④ 議論 ⑤ フィールドワーク<br>⑥ 論文レポート作成 ⑦ 異なる学類でのグループ活動<br>⑧ 中間発表 ⑨ 最終発表 ⑩ 大学院生や大学の先生との質疑 |                                                             | ①   | ②   | ③   | ④   | ⑤   | ⑥   | ⑦   | ⑧⑨  | ⑩   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 力を注いだと選択した生徒数                                                                                                        |                                                             | 323 | 481 | 454 | 319 | 132 | 362 | 164 | 454 | 129 |
| (ア)                                                                                                                  | 研究に積極的に取り組んだり、困難な課題にもチャレンジできるようになった。(主体性)                   | 106 | 109 | 104 | 107 | 104 | 107 | 103 | 109 | 107 |
| (イ)                                                                                                                  | グループの状況を見て、自分ができることやもっとこうしたらよいと思ったことを率先して提案できるようになった。(チーム力) | 105 | 110 | 105 | 107 | 109 | 107 | 107 | 103 | 107 |
| (ウ)                                                                                                                  | 研究のプロセスで、グループ内で意見交換が活発にできるようになった。(コミュニケーション能力)              | 104 | 108 | 106 | 108 | 105 | 105 | 107 | 106 | 107 |
| (エ)                                                                                                                  | 他者に理解しやすくなるように、発表内容や伝え方の工夫ができるようになった。(プレゼンテーション能力)          | 103 | 109 | 105 | 107 | 107 | 106 | 104 | 112 | 105 |

スーパーグローバルハイスクール（SGH）意識調査

学年( )クラス( )出席番号( )氏名

1 (1) 次の□の内にある①～⑩の課題研究の学習活動から、力をそそいだものをすべて選んで下さい。

- ① 先行事例の研究 ② リサーチエクステンションの設定 ③ 調査・実験  
④ 議論 ⑤ フィールドワーク ⑥ 論文レポート作成  
⑦ 異なる学類でのグループ活動 ⑧ 中間発表 ⑨ 最終発表  
⑩ 大学院生や大学の先生との質疑

(2) 課題研究についての、次の(ア)から(エ)の回答として、もっとも適当なものを、□にある1から5よりそれぞれ1つ選んでください

- 1 当てはまる 2 どちらかと言えは当てはまる 3 どちらとも言えない  
4 どちらかと言えは当てはまらない 5 当てはまらない

(ア) 研究に積極的に取り組んだり、困難な課題にもチャレンジできるようになった。  
(イ) グループの状況を見て、自分ができることや、もっとこうしたらよいと思ったことを率先して提案できるようになった。

(ウ) 研究のプロセスで、グループ内で意見交換が活発にできるようになった。

(エ) 他者に理解しやすくなるように、発表内容や伝え方の工夫ができるようになった。

|     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| (ア) | (イ) | (ウ) | (エ) |
|-----|-----|-----|-----|

(3) 課題研究に取り組んで良かったことを回答してください。

2 (1) 課題研究や学類研修、海外研修など、SGHに関連する学習や行事について、次の(ア)から(ウ)の回答として、もっとも適当なものを、□にある1から5よりそれぞれ1つ選んでください

- 1 当てはまる 2 どちらかと言えは当てはまる 3 どちらとも言えない  
4 どちらかと言えは当てはまらない 5 当てはまらない

(ア) 留学や進学など、海外で学びたいといった意識が向上した。

(イ) 異なる文化についても違いを認めたり、互いを尊重したりする、異文化に対する理解が深まった。

(ウ) 語学力が向上した。

|     |     |     |
|-----|-----|-----|
| (ア) | (イ) | (ウ) |
|-----|-----|-----|

(2) あなたは本校で、次の行事に参加しましたか。参加した行事があれば、○を付けて下さい。

①海外文化体験研修 ( ) ②国外の学類研修 ( ) ③海外修学研修 ( )

(3) あなたは本校で実施する(2)以外に、高校で海外に留学した経験がありますか。あれば訪問した年月、国名、期間を教えてください。

(4) (2)の①から③で○を付けた生徒のみ答えて下さい。

本校では、海外での研修プログラムを実施していますが、どのような成長・発見・能力の伸張がありましたか。

(5) あなたが、今年度、受験したものが次の①から⑤にあれば○を付けて下さい。  
①英語検定 ( ) ②TOEIC ( ) ③TOEFL ( ) ④IELTS ( )  
⑤GTEC ( ) **注意 ⑤は3年生のみ対象**

3 SGHでは、課題研究や海外での体験、学類の専門学習を通じて、「グローバルな視野」「主体的・協力的実践力」を育成することを目的としています。  
あなたは、本校のSGHの取組を通じて、どういった力が育ったと思いますか。理由も記入して回答してください

4 ※2・3年次のみ回答してください。

(1) 次の学類コア科目で学習しているものを次の①から⑦より1つ選んでください  
【学類コア科目】

- ①文学探究 ②歴史探究 ③文化総合 ④国際理解 ⑤(Global Studies, プラティカル・ライティング)  
⑥音楽理論Ⅰ、リハーゼ・Ⅰ、音楽理論Ⅱ、リハーゼ・Ⅱ ⑦ Global Science

※⑤や⑥については( )の中にあるものを何か学習していれば、  
⑤や⑥を選択してください。

(2) 学類コア科目の学習についての、次の(ア)から(ウ)の回答として、もっとも適当なものを、□にある1から5よりそれぞれ1つ選んでください

|                   |                 |             |
|-------------------|-----------------|-------------|
| 1 当てはまる           | 2 どちらかと言えは当てはまる | 3 どちらとも言えない |
| 4 どちらかと言えは当てはまらない | 5 当てはまらない       |             |

(ア) 学習に対する知的好奇心が喚起された。

(イ) 学類の専門性が深化した。

(ウ) 思考力や判断力、創造力が養成された。

|     |     |     |
|-----|-----|-----|
| (ア) | (イ) | (ウ) |
|-----|-----|-----|

(3) 学類コア科目では、どんな学習（学習内容、授業の教材、授業形態、外部講師、授業の進め方など）が良かったですか。具体的に回答してください。

## SGH意識調査の選択の質問の結果

1(2) 課題研究についての、次の(ア)から(エ)の回答を①から⑤で選択せよ

- (ア) 研究に積極的に取り組んだり、困難な課題にもチャレンジできるようになった。  
 (イ) グループの状況を見て、自分ができることや、もっとこうしたらよいと思ったことを率先して提案できるようになった。  
 (ウ) 研究のプロセスで、グループ内で意見交換が活発にできるようになった。  
 (エ) 他者に理解しやすくなるように、発表内容や伝え方の工夫ができるようになった。

2(1) 課題研究や学類研修、海外研修など、SGHに関連する学習や行事について、次の(ア)から(ウ)の回答を①から⑤で選択せよ

- (ア) 留学や進学など、海外で学びたいといった意識が向上した。  
 (イ) 異なる文化についても違いを認めたり、互いを尊重したりする、異文化に対する理解が深まった。  
 (ウ) 語学力が向上した。

4(2) 学類コア科目の学習についての、次の(ア)から(ウ)の回答を①から⑤で選択せよ

- (ア) 学習に対する知的好奇心が喚起された。  
 (イ) 学類の専門性が深化した。  
 (ウ) 思考力や判断力、創造力が養成された。

|                  | 1(2)  |       |       |       | 2(1)  |       |       | 4(2) |     |     |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-----|-----|
| 1年次生（回答割合）       | (ア)   | (イ)   | (ウ)   | (エ)   | (ア)   | (イ)   | (ウ)   | (ア)  | (イ) | (ウ) |
| 1 当てはまる          | 28.3% | 31.4% | 35.4% | 26.8% | 22.4% | 30.4% | 8.9%  |      |     |     |
| 2 どちらかと言えば当てはまる  | 48.6% | 45.2% | 43.4% | 42.8% | 26.1% | 36.5% | 20.2% |      |     |     |
| 3 どちらとも言えない      | 20.3% | 17.2% | 15.1% | 22.2% | 23.3% | 22.7% | 36.5% |      |     |     |
| 4 どちらかと言えば当てはらない | 1.8%  | 4.6%  | 4.9%  | 6.8%  | 12.9% | 4.9%  | 16.3% |      |     |     |
| 5 当てはまらない        | 0.9%  | 1.5%  | 1.2%  | 1.5%  | 15.3% | 5.5%  | 18.1% |      |     |     |

|                  | 1(2)  |       |       |       | 2(1)  |       |       | 4(2)  |       |       |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 2年次生（回答割合）       | (ア)   | (イ)   | (ウ)   | (エ)   | (ア)   | (イ)   | (ウ)   | (ア)   | (イ)   | (ウ)   |
| 1 当てはまる          | 14.2% | 27.4% | 30.1% | 13.6% | 21.7% | 32.2% | 6.3%  | 19.9% | 21.4% | 20.0% |
| 2 どちらかと言えば当てはまる  | 49.7% | 45.2% | 39.2% | 45.5% | 18.7% | 37.7% | 16.9% | 38.0% | 41.6% | 45.2% |
| 3 どちらとも言えない      | 29.2% | 19.9% | 22.3% | 33.1% | 25.0% | 20.2% | 37.7% | 26.8% | 23.2% | 24.2% |
| 4 どちらかと言えば当てはらない | 4.5%  | 6.0%  | 4.8%  | 6.0%  | 12.0% | 3.9%  | 15.1% | 9.0%  | 8.7%  | 6.1%  |
| 5 当てはまらない        | 2.4%  | 1.5%  | 3.6%  | 1.8%  | 22.6% | 6.0%  | 24.1% | 6.3%  | 5.1%  | 4.5%  |

|                  | 1(2)  |       |       |       | 2(1)  |       |       | 4(2)  |       |       |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 3年次生（回答割合）       | (ア)   | (イ)   | (ウ)   | (エ)   | (ア)   | (イ)   | (ウ)   | (ア)   | (イ)   | (ウ)   |
| 1 当てはまる          | 26.6% | 30.7% | 29.7% | 24.5% | 28.9% | 42.4% | 8.7%  | 31.1% | 31.7% | 23.0% |
| 2 どちらかと言えば当てはまる  | 46.7% | 42.7% | 45.8% | 44.0% | 26.1% | 35.5% | 17.0% | 37.9% | 38.2% | 39.8% |
| 3 どちらとも言えない      | 22.3% | 19.5% | 16.7% | 24.5% | 21.1% | 13.7% | 40.6% | 20.5% | 19.9% | 27.0% |
| 4 どちらかと言えば当てはらない | 3.1%  | 6.5%  | 6.2%  | 6.5%  | 9.9%  | 4.4%  | 18.0% | 6.8%  | 6.8%  | 6.8%  |
| 5 当てはまらない        | 1.2%  | 0.6%  | 1.5%  | 0.6%  | 14.0% | 4.0%  | 15.8% | 3.7%  | 3.4%  | 3.4%  |

|                  | 1(2)  |       |       |       | 2(1)  |       |       | 4(2)  |       |       |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全生徒（回答割合）        | (ア)   | (イ)   | (ウ)   | (エ)   | (ア)   | (イ)   | (ウ)   | (ア)   | (イ)   | (ウ)   |
| 1 当てはまる          | 23.0% | 29.8% | 31.7% | 21.5% | 24.3% | 34.9% | 8.0%  | 25.4% | 26.5% | 21.5% |
| 2 どちらかと言えば当てはまる  | 48.4% | 44.4% | 42.8% | 44.1% | 23.6% | 36.6% | 18.0% | 37.9% | 39.9% | 42.5% |
| 3 どちらとも言えない      | 24.0% | 18.9% | 18.1% | 26.6% | 23.2% | 18.9% | 38.2% | 23.7% | 21.6% | 25.6% |
| 4 どちらかと言えば当てはらない | 3.2%  | 5.7%  | 5.3%  | 6.4%  | 11.6% | 4.4%  | 16.4% | 8.0%  | 7.8%  | 6.4%  |
| 5 当てはまらない        | 1.5%  | 1.2%  | 2.1%  | 1.3%  | 17.3% | 5.2%  | 19.4% | 5.0%  | 4.3%  | 4.0%  |

|                  | 1(2)  |       |       |       | 2(1)  |       |       | 4(2)  |       |       |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| GLOBALⅢ選択者       | (ア)   | (イ)   | (ウ)   | (エ)   | (ア)   | (イ)   | (ウ)   | (ア)   | (イ)   | (ウ)   |
| 1 当てはまる          | 66.7% | 66.7% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 66.7% | 66.7% | 50.0% | 83.3% | 83.3% |
| 2 どちらかと言えば当てはまる  | 33.3% | 33.3% | 50.0% | 50.0% | 33.3% | 16.7% |       | 50.0% | 16.7% | 16.7% |
| 3 どちらとも言えない      |       |       |       |       |       | 16.7% | 16.7% |       |       |       |
| 4 どちらかと言えば当てはらない |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
| 5 当てはまらない        |       |       |       |       | 16.7% |       | 16.7% |       |       |       |